

ある寂しい夜のこと

わたしは貧しい若者で、大変狭い小路の1つに住んでいます。と言っても、光がさしてこないというようなことはありません。何しろ、周りの屋根越しに、ずっと遠くの方まで見渡すことができるほど、高い所に住んでいるのですから。この町に来た最初のころは、ひどく狭苦しい気がして、寂しい思いをしたものです。それもそのはず、森や緑の丘の代わりに、地平線に見えるものと言えば、ただ灰色の煙突ばかりなのですからね。おまけに、ここには友達は1人もいませんし、あいさつの声をかけてくれるような顔なじみもなかったのです。

ある晩のこと、わたしは大変悲しい気持ちで窓のそばに立っていました。ふと、わたしは窓を開けて、外を眺めました。ああ、その時、わたしはどんなに喜んだか知れません！そこには、わたしのよく知っている顔が、丸い、懐かしい顔が、遠い故郷からの、一番親しい友達の顔が見えたのです。それは月でした。懐かしい、昔のままの月だったのです。あの、故郷の沼地のそばに生えている柳の木の間から、わたしを見下ろした時と少しも変わらない月だったのです。わたしは、自分の手にキスをして、月に向かって投げやりました。すると、月はまっすぐわたしの部屋の中にさし込んできて、

これから毎晩、ちょっとわたしの所をのぞき込もうと約束してくれました。

その夜から、月は、ちゃんとその約束を守ってくれています。ただ残念なのは、

月がわたしの所に、ほんのわずかの間しかいられない、ということです。

でも、来る度ごとに、その前の晩か、その晩に見たことをあれこれと話して

くれるのでした。「さあ、わたしの話すことを絵におかきなさい」と、月は

初めて訪ねてきた晩に言いました。「そうすれば、きっととてもきれいな

絵本ができますよ。」そこでわたしは、幾晩も幾晩も、言われた通りに

やってみました。とてもきれいな絵がかけました。わたしはこれからも、

このように絵をかいていくつもりです。

あるさびしいよるのこと

わたしはまずしいわかもので、たいへんせまい こうじのひとつに
すんでいます。といっても、ひかりがさしてこないというようなことは
ありません。なにしろ、まわりのやねごしに、ずっととおくのほうまで
みわたすことができるほど、たかいところにすんでいるのですから。
このまちにきた さいしょのころは、ひどくせまくるしいきがして、
さびしいおもいを したものです。それもそのはず、もりや みどりの
おかのかわりに、ちへいせんにみえるものといえは、ただ はいいろの
えんとつばかりなのですからね。おまけに、ここには ともだちはひとりも
いませんし、あいさつのかえをかけてくれるような かおなじみも
なかったのです。

あるばんのこと、わたしはたいへんかなしいきもちで まどのそばに
たっていました。ふと、わたしはまどをあけて、そとをながめました。
ああ、そのとき、わたしは どんなによるこんだか しれませんが、
そこには、わたしのよく知っているかおが、まるい、なつかしいかおが、
とおいきょうからの、いちばんしたいともだちのかおが みえたのです。

それはつきでした。なつかしい、むかしのままの つきだったのです。

あの、こきょうのぬまちのそばにはえている やなぎのきのあいだから、

わたしをみおろしたときと すこしもかわらないつきだったのです。

わたしは、じぶんのてにキスをして、つきにむかって なげてやりました。

すると、つきはまっすぐ わたしのへやのなかに さしこんできて、

これからまいばん、ちょっと わたしのところをのぞきこもうと

やくそくしてくれました。そのよるから、つきは、ちゃんとそのやくそくを

まもってくれています。ただざんねんなのは、つきがわたしのところに、

ほんのわずかのあいだしか いられない、ということです。

でも、くるたびごとに、そのまえのばんか、そのばんにみたことを

あれこれとはなしてくれるのでした。「さあ、わたしのはなすことを

えにおかきなさい」と、つきは はじめてたずねてきたばんに いいました。

「そうすれば、きっと とてもきれいなえほんができますよ。」

そこでわたしは、いくばんもいくばんも、いわれたとおりにやってみました。

とてもきれいなえがかけました。わたしはこれからも、このように

えをかいていくつもりです。

一個寂寞的晚上

我是一個貧窮的青年，住在一條非常狹窄的小路上的房子裡。話雖如此，也不是一點光線也沒有的地方。總之，我是住在一個比周遭的房子還要高，能夠舉目眺望遠方的高處。初次來到這個市鎮的時候，我覺得這裡十分狹小，亦曾經爲此而感到寂寞。理所當然地，在地平線上我所看見的並不是森林與綠油油的山丘，取而代之的只有一枝枝灰色的煙囪而已。不單如此，在這裡我一個既沒有一個朋友，也沒有會給我問候說話的熟悉臉孔。

有一天晚上，我以非常悲傷的心情站在窗前。偶然打開窗，我向外眺望。呀，那時候，我是如何地高興啊！在那兒，我看到一張熟悉的臉孔：圓圓的、令人愜懷的、在遠方故鄉裡我最要好的朋友的臉。那是月亮。那個令人愜懷、就和從前一樣的月亮。與那個曾經從故鄉的沼澤地旁生長著的柳樹間看顧我的，一模一樣的月亮。我吻了我的手，然後把那個吻投向月亮。這時，月光突然照進了我的房間，並答應我從此以後的每個晚上，她都會悄悄地望進我的房裡。從那天晚上起，月亮都緊守她的承諾。只可惜的是，月亮只有很少時間可以留在我的房間。可是，她每次來的時候，都會告訴我各種各樣她在前一個晚上、或者是當天晚上見到的事情。「好吧，你就將我的話畫下來吧。」她在探訪我的第一個晚上是如此跟我說的。「這樣的話，一定可以做到一本十分漂亮的畫冊的。」於是我從此以後的多個晚上，都照著她的話去做。所以我能夠到畫很漂亮的畫。從今以後，我也打算繼續畫這種圖。